



館長が紹介する「印象に残った一文」とは？

フレーズ
&
センテンス

「この世に生きるものが、なぜ、このように在るのかを、知りたいのです。」
先日、本屋大賞を受賞した『鹿の王』の著者、上橋さんの代表作のひとつ、『獣の奏者』の主人公であるエリンの言葉です。長編ファンタジーであるこの作品には、架空の生き物が登場します。ですが、生態系や人間との関わり合いなど、本当にその生き物たちが存在しているかのように描かれており、壮大かつ綿密な世界観に驚かされます。生き物と心通わせることがこんな風にできたら…読みながらそう思わずにはいられない物語です。
『獣の奏者』上橋菜穂子／著 講談社 (青山)

「誰か×誰か」「誰か×何か」の組み合わせが面白い！

オヤジ3人組 × 修学旅行

『もいちど修学旅行をしてみたいと思ったのだ』 小学館

修学旅行、どこへ行って何をみたのか、皆さんはどこまで覚えていますか？ この本では、「観光地を巡った記憶など登録抹消に近い」とのたまう3人組が、修学旅行さながらに日本の名所を旅しています。学校行事に対する懐かしさを覚えると同時に、訪問先の魅力も充分知ることができるのですが、第二の修学旅行を満喫する彼らがとにかく面白い(笑)。臨場感あふれる文章と随所に見られる記念写真により、その様子がユーモアたっぷりに描かれています。思わずクスリと笑ってしまう、楽しい旅行記です。(本田)

かける ×本精読



原作本から入って良し、映画から入っても良し。

第15回 時をかける少女

★原作「時をかける少女」著者：筒井康隆 KADOKAWA

★映画「時をかける少女」監督：細田守

みなさんは「過去をやり直したい」と思ったこと、ありませんか？

『時をかける少女』は、筒井康隆が書いたSF小説です。主人公の芳山和子はある日の放課後、理科実験室でラベンダーの香りをかいでから、自分が時間をさかのぼる能力を身につけてしまったことに気がきます。彼女は同級生や担任の先生と一緒に何とかしてその理由と元に戻る方法を探すのですが…。この小説はドラマや漫画、実写映画など様々なメディア・ミックスがなされていますが、その中でも今回は細田守監督のアニメーション映画をご紹介します。この映画は、原作を下敷きしつつも、和子の姪である紺野真琴を主人公とした、新たな物語となっています。同じ女子高生でも、真琴は何のためらいもなく時間をさかのぼる能力を使ってしまう。その結果、彼女の周りで何が起こったのか。…彼女の葛藤と成長、そして青春のきらめきを楽しんでいただきたい物語です。次回は『ナルニア国ものがたり』です。お楽しみに！ (丸山)

★ことばを感じる、イメージ(想像)する★

突然ですが・・・“外はカリッ、中はふわふわ、極上フレンチトースト”と、“外は水分が抜けてほどよく堅い、中は柔らかく膨らんだ極上フレンチトースト”どちらがイメージしやすいですか？ まあ、大人だったら、後者の科学的な表現を、頭の中でカリッ、ふわふわに変換したり想像したりができるし、むしろ科学的な言葉の方がより具体的に美味しさをイメージできる場合もあるかしら……。でもこれが幼い子どもだったら、やっぱり前者のカリッ、ふわふわ、なフレンチトーストのほうが断然イメージしやすいですよ。このようなことばは、擬音語や擬態語といわれる“オノマトペ”美味しそうな言葉以外にも、人の心理状態を表す「どきどき」「うっとり」や「ずきずき」のような痛みを表す言葉など、日本語には豊かなオノマトペがたくさんありますね。

幼い子どもは新しい言葉にとっても敏感！ むしゃむしゃと食べるようにどんどん新しい言葉を獲得する時期。ちょっとくらい遣い方が間違っていたって気にしない！ その間違いっぷりがまた可愛い～♥(笑)。子どもたちは、(よし、ことばをおぼえるぞー♪)と覚えるのではなく、耳にしたことばを身体で、五感で感じ、そのことばが自分のイメージしたもの一致したときにはじめて「自分のことば」にする、そうやって語彙を獲得していきます。“イメージ(想像)できる”ことが大切。生まれて数年という人生経験が乏しい幼児の「想像力」を助けてくれる「絵」が添えられ、短くてイメージしやすいオノマトペが豊かにちりばめられた『絵本』では、子どもたちの様々な反応が見られます。ある図書館の絵本講座に来てくれたママさん：「うちの子、絵本に興味が無いみたいで、家では全然読んであげていないんです。」そのママの膝に抱かれた9カ月の赤ちゃんは、私が読む絵本のオノマトペが出てくるたびに、はっ！ とした顔で、えっ？ という顔で、時にはニヤツと笑顔で、思いっきり反応してる！ してる！ 「絵本に興味が無いなんてとんでもないです！(笑)」とお伝えしました♪

★今月の絵本★

耳にして嬉しい！ 心がはずむ“オノマトペ”



『トマトさん』 田中清代/作・絵 (福音館書店)

誰もがこの表紙に圧倒されてしまうのだけど、絵だけでなくオノマトペの美しさもピカイチなのよ。



『てるてるぼうず』 おぐまこうじ/作・絵 (くもん出版)

とっても愛らしいてるてる坊主♥お外の様子をひと言で表現するところなります♪



『もじもじさんのことば劇場』 西村敏雄/作 (偕成社)

ことばを楽しみながら、もじもじさんが大好きになります♥さて問題、もじもじさんは何歳でしょう？



『わにわにのごちそう』 小風さち/作、山口マオ/絵 (福音館書店)

一見怖そう？あまり可愛くない？わにわにですが、一度読んだら大好き♥に！？